

第三期習近平政権の始動

日中関係学会

2022年10月28日

静岡県立大学 諏訪一幸

1

1. 第20回党全国代表大会と1中全会の開催

(2022年10月16日～22日、23日)

2. 全般的評価

(1) 胡錦濤の「退席」が象徴するように（後述）、習近平の一人勝ち（一強体制確立）の大会

(2) 予兆 習近平（指導部）への忖度、保身

①在英マンチェスター中国総領事館「デモ参加者敷地内引きずり込み」事件（10月16日）

②7～9期GDPの発表見送り

(10月18日発表予定。24日発表、前年同期比実質3.9%増)

2

3. 政治報告

(1) **総論** 習近平路線の継続と強化を強調、新味なし

- ①「新味なし」は自信の表れ？
- ②政権をイメージさせるキーワードは「闘争、安全、強国」
- ③基調を支配する米中対立

3

④それを表現する最重要キーワード1「**中国式現代化**」

「中国式現代化の本質的要求とは、中国共産党の領導を堅持し、中国の特色ある社会主義を堅持し、質の高い発展を実現し、すべてのプロセスでの人民民主を発展させ、人民の精神的世界を豊かにし、全人民の共同富裕を実現し、人と自然の調和と共生を促進し、人類運命共同体の構築を促進し、人類文明の新たな形を創造することである」

4

(2) 各論

①内政

- 習近平の信念は「安定」の追求
- 「**自我革命**（最重要キーワード2）としての反腐敗。
それによる歴史周期律の超克」（後述）
- レガシーは台湾統一と共同富裕の実現
- デカップリングも念頭に（科学技術の自立自強）

5

②外交

- 内政を含め、すべては対米勝利のため
- 中国式人権への自信、途上国との関係強化

③台湾 武力統一の可能性を否定せず

- ロシアによるウクライナ侵略失敗の教訓で、**ハードルは上がった？**

6

(3) **補充1** : 京西賓館での「重要講話」(7月26日。対象は省部級主要幹部)と政治報告の類似点

①タイトル

- 20大「高举中国特色社会主义伟大旗帜
为全面建设社会主义现代化国家而团结奋斗」
- 京西「高举中国特色社会主义伟大旗帜
奋力谱写全面建设社会主义现代化国家崭新篇章」

②キーワード(「中国式社会主義」、「自我革命」)に言及

7

(4) **補充2** : 「自我革命」「反腐敗」「歴史周期律」

①19大「只有以反腐败永远在路上的坚韧和执着，深化标本兼治，保证干部清正、政府清廉、政治清明，才能跳出历史周期率，确保党和国家长治久安」(「永遠に反腐敗を行ってはじめて、歴史周期律を脱し、党と国家の長期安定が確保できる」)

②20大「经过不懈努力，党找到了自我革命这一跳出治乱兴衰历史周期率的第二个答案，确保党永远不变质、不变色、不变味」(「党は、盛衰を繰り返す歴史周期律を乗り越える(反腐敗闘争による)自我革命という第二の答えを探し当てた」)

→ 第二の答えとは「第二の継続革命」?

→ 権力を握って「矛盾」を生み出した毛沢東。権力を握って社会の「安定」を目指す習近平

8

4. 改正党規約

(1) 前文

- ① 「二つの確立」（習近平同志の党中央の核心、全党の核心としての地位。習近平新時代の中国の特色ある社会主義思想の指導（指導）的地位）なし
- ② 「領袖」「習近平思想」なし
- ③ 「祖国統一の大業を完成する」→「台湾独立に断固反対し、抑え込む」

9

- ④ 「中国式現代化をもって中華民族の偉大な復興を全面的に促進する」
- ⑤ 「闘争精神を発揚し、闘争の本領を増強する」「偉大な自我革命をもって、偉大な社会革命をリードする」
→ 「革命」「闘争」好きの習近平。新たな「継続革命」？
- ⑥ 「強さ」については、「政治建軍、改革強軍、科技強軍、人材強軍、依法治軍を堅持する」

10

(2) 本文

- ①「二つの擁護」（習近平総書記の党中央の核心、全党の核心的地位を断固擁護する。党中央の権威と集中的統一指導を断固擁護する）（第3条）
- ②「集団指導」と「個人崇拜の禁止」を継続（第10条）
- ③「主席」なし

11

5. 指導部人事

(1) 総論

- ①「習近平主従党中央」の誕生
- ②コインの表と裏
 - ネポティズムを強行できる強さと「辞められない」弱さ
 - 周永康追放の意味するところ

(2) 中央政治局常務委員

- ①李克強！ 栗戦書 汪洋！ 韓正がリタイア

12

②新指導部

習近平（中央軍事委員会主席、国家主席）

李 強（総理。浙江省長の後、上海市党委書記）

趙楽際（全人代委員長）

王滬寧（全国政協主席）

蔡 奇（筆頭副総理？福建省三明市長、浙江省副省長を経て、北京市党委書記）

丁薛祥（イデオロギー？上海市党委常務委員を経て、中央弁公庁主任）

李 希（中央規律検査委員会書記。延安市委書記を経て、広東省党委書記）

13

（3）中央政治局委員

①新顔は馬興瑞（新疆書記。広東副書記、国防）、王毅（国務委員、外交部長）、尹力（福建書記）、石泰峰（中国社科院院長。中央党校副校長）、劉国中（陝西書記）、李幹傑（山東書記）、李書磊（中央宣伝部部長。中央党校副校長）、何衛東（軍事委副主席。東部戦区司令員）、何立峰（国家発改委主任。厦門書記）、張国清（遼寧書記。国防、清華大学）、陳文清（国家安全部長。福建副書記）、陳吉寧（北京市長。清華大学学長）、袁家軍（浙江書記。国防）

②女性と少数民族おらず

③後継候補見当たらず。第四期も視野

14

- ④張又俠（1950.7）が残留し、王毅（1953.10）も入る
 - 中央政治局委員での「7上8下」形骸化
 - 王毅は、従来の軍人、女性という例外枠に入らず
- ⑤胡春華が退くも、中央委員に「とどまらせる」

↑ 予兆

「推進領導幹部能上能下規定」（『人民日報』2022年9月20日）

- 引退年齢に達しなくとも、より容易に引退させる趣旨
- 2015年の試行にあった「幹部の定年制度を厳格に実行する。在職年限に達した、あるいは引退年齢に達した幹部は、規定に基づいて手続きを行わなければならない」との文言を削除

15

6. 展望と対応

（1）内外政策での更なる習近平化

- ①異質を排除する強権政治の強化
- ②「外交は闘争」と平和共存五原則の整合性

（2）習近平は毛沢東を意識したスタート

- ①10月27日、全常務委員を連れて、延安視察
 - 「党と毛主席を讃える文芸作品は、人民大衆が自発的に創造したもので、人民が毛沢東を選び、毛沢東を推戴していることを十分説明している」と指摘
- ②18大直後、全常務委員を引き連れて、「復興の路」展覧会を参観、「中国の夢」提起。今回は「自我革命」

16

(2) 今後の日中関係コンセプト

①長期的視野が必要

②「良き競争関係を目指しての、対峙と協働。対峙を上回る協働」

→ 対峙の対象は主権（東シナ海、尖閣）、台湾、商習慣など。手段は防衛力強化、同盟国、友好国、ASEANとの関係強化

→ 協働は国際的課題（気候変動、環境）、経済、少子高齢化、若者交流などの分野での協力強化

③「ロシアと袂を分かって構築する、これからの日中50年」

17

<補足 胡錦濤「退席」問題>

1. 中央委員選出選挙を終え、記者を入れた後だった理由は？

→ 胡錦濤（主席団メンバーとして、候補者名簿作成に関与できる立場）が認知症であれば、合理的説明できず

2. 明確なこと

(1) 想定外の事態

(2) 何か（人事？）に不満な様子の胡錦濤を会場から強制的に連れ出す

(3) 習近平（ら）は前任者、長老に敬意を払わず（習近平政治を象徴）

(4) 政治報告を含め、習近平には前任者を葬るだけの権力がある

4. 党内外において、(3)と(4)のいずれが主流を占めるかが、今後の趨勢に影響？ 胡錦濤（1942年12月生）の今後は？

18